

大分県立看護科学大学 学生交流プログラム 2010



2010.8.22～29

姉妹校である韓国のソウル国際大学の看護学生との交流をしました。
韓国の様々な医療・福祉施設で学んだことを学生の感想で紹介します。

2010年08月23日(月)

ソウル国際大学看護大学

3年 Y.M

私たちは2日目にソウル大学の看護学科のキャンパスの見学をしました。ソウル大学のキャンパス内には演習用の模擬患者やベッドや様々な研修室がありました。校内にある物品や部屋はあまり私たちの学校と変わりはありませんでした。公舎は広くて、静かなところであり、勉学に励むのに良い環境でした。

私が一番印象に残ったのは、看護の歴史やナイチンゲールのことがくわしく説明された展示コーナーが大学内にあったことです。昔の助産師が子供を妊産婦からとりあげている風景や昔看護師が着ていた制服などが展示されていて、昔の看護の様子を鑑賞することにより、看護のルーツを知るとともに看護は日々進化しているということを示物を見て感じることができました。また私はナイチンゲールにとっても強い憧れを持っているので、ナイチンゲール記章やナイチンゲールの石像を実際に見ることができ、とてもうれしかったし、ナイチンゲールのことについて前よりもっと理解を深めることができました。私も将来ナイチンゲールのような素敵な看護師になれるようこれから一生懸命勉学に励もうと思いました。

2010年08月23日(月)

ソウル国際大学病院 (Seoul National University Hospital) & 子ども病院 (Children's Hospital)

4年 A.F

SUN 病院ではとても多くの方が働いていました。さまざまな職種の人をあわせて5千人ほどです。

私たちは外科に見学へ行きました。一番印象に残ったことは日本の病棟は看護師対患者が1対

7なのに対し、SUN病院では1対1.5だったことです。

そして、各ベッドに患者の家族用ベッドが配置されていました。家族がいつでも面会、宿泊できるようにするためです。家族をととても大切に思うという韓国の民族性が感じられました。

子供病院ではまず、デザインの可愛さに驚きました。とてもカラフルで病院とは思えませんでした。実際病室を見学させていただくと、ベッド間のカーテンがありませんでした。これは看護師が患児たちを観察しやすくするためだそうです。

SUN病院では日本の大学病院（私は大分の病院しか知りませんが・・・）と異なる点がたくさんあり、とてもよい学びとなりました。



2010年08月24日(火)

テファ ファンテン ハウス (Taiwha Fountain House) : クラブハウス (Club House)

3年 H.T

テファファンテンハウスは1986年に韓国に初めての精神障害者のための地域社会復帰施設でありクラブハウスです。クラブハウスモデルは人間の尊重をもとに実現する場です。クラブハウスはメンバーの参加で成り立ちます。自発的に自分の仕事とともに働く同僚を選び自分の能力を開発しクラブハウスの一員として参加しています。

クラブハウスには「機会・スペース・発言」の3つの平等があります。

企業に承諾を得て働くこともできるようにして社会復帰できるようにしている。また承諾を得ているために症状がでたら休みがもらえるように許可がでていたためメンバーの負担が少ないと思いました。就労できる会社を増やすためにはスタッフが積極的に活動することが大切だと言っていた。

クラブハウスは必ず3週間トレーニングを受けないといけないがテファファンテンハウスはアジア地域のクラブハウスの3週間トレーニングの場にもなっている。

3週間トレーニングはメンバー1名、スタッフ1名が参加する。

ここを訪れた時メンバーの方が施設の案内もしてくれた。これも社会復帰のための訓練になると思った。



日本にはクラブハウスが5ヶ所あるが韓国は3倍の15ヶ所ある。今後日本でもクラブハウスが増えていくと精神障害者が社会復帰しやすい環境になっていくと思いました。

2010年08月24日(火)

ソンパ区保健所 (Song-Pa Public Health Center)

4年 Y.N

まず、私たちが訪問した保健所があるソンパ区について簡単に説明します。ソンパ区はソウル特別市の南東部に位置し、北部が漢江南岸に接する区です。人口は約70万人でソウル特別市の区で一番多いそうです。また、ソウルオリンピックが開催されたため、オリンピックスタジアムや、道の真ん中に様々な競技のモニュメントが置かれており整備されとてもきれいな街だと感じました。



そんなソンパ区の保健所は約1500人の従業員がおり、とても大きくその広さと利用者の数に驚きました。病院のように一般診療や口腔診療を行っていて、漢方やお灸など代替療法も行っていました。保健所であるにもかかわらずX線はもちろん、エイズなどの性感染症や結核や癌などの病理検査をする専門の機器も所有して、普通の病院よりも良い設備を持っており、病院はいいのではないかなと思うほどでした。そのような診療や、検査は日本に比べてとても安い金額で受けることができます。他にも妊婦のエコーや12歳までに子どもが受けなければならない予防接種が無料だったり、低所得者は癌検診無料だったりします。不妊治療や未熟児などに対しての治療・医療費の補助もあります。このような背景には、日本と韓国の政府の特徴があるのではないかなと思います。韓国はよいとわかればすぐに大きな予算がおります。日本の場合は、その決断が下されるまでのプロセスが長すぎるように思います。国民や地域住民の健康を守っていくには、韓国の保健所はとてもよい場所であると感じました。

さらに、栄養センターといって、自分の食べた物のカロリーを計算したり、BMIを図ったりするコーナーや、スポーツジムのような部屋で体力測定や体脂肪測定などを行い、結果が悪い人は運動をしたり健康教育を受けたりできる場所もあります。

日本の保健所では、何をしているかわからない。どんなサービスが受けられるのかわからない。これが日本の保健の現実だと思います。韓国の保健所はそれとは対照的に、設備も整っており、利用料も安くとてもサービスも豊富で利用しやすいという印象を受けました。日本と韓国を比較して、それぞれのよいところを学びあって高めあっていけるよう、今回の交流を通して学んだことを今後の看護に活かしていきたいと思います。

2010年08月26日(木)

グリーンヒル高齢者福祉施設 (Green Hill Nursing Home)

3年 M.H

今回私は、ソウル大学との交流でのグリーンヒルナーシングホームについて紹介したいと思います。

最初にグリーンヒルナーシングホームを見た時は大きなおしゃれな建物だなという印象を受けました。グリーンヒルは日本でいう介護老人施設や特別養護老人ホームといった施設に該当します。グリーンヒルの周りには木や様々な種類の花が咲いていて、内装もきれいな絵などが飾られていたり、お風呂が檜風呂であったりととても充実した施設でした。私もここに住みたいなと感じてしまうほど綺麗な場所でした。グリーンヒルの施設長さん



は看護師の方で、自分のお母さんもグリーンヒルに住むのでお母さんが住みやすいようにと考えて作ったのだとおっしゃいました。実際にグリーンヒルに住んでいる方とお話をする、「施設もいいし、ここの人たちは優しくて、色々してくれるのでとても助かります。」と笑顔で答えてくれました。見学をしていると、利用者さんや職員の方はみんな笑顔で接しているところが印象に残りました。

廊下を歩いているととてもいい匂いがしていたので何か聞いてみるとアロマ療法を行っているということを聞きました。利用者の方はオムツを使用している方が多いので、オムツの臭いが気にならないようにするためにアロマ療法を行っているそうです。アロマ療法を行っている施設を日本では見たことがなかったのでとても新鮮に感じました。

そして、施設長さんのお話を聞く機会があったのですが、施設長さんはとても詳しく丁寧にお話をしてくださいました。グリーンヒルを利用者さんに満足していただくために何をすべきなのか、未来の介護に必要なことは何なのかなどを具体的に考えて様々な計画を考えておられました。常に意欲と向上心を持って前に向かって進んでいる姿をととても素晴らしいと感じ、私もこの人のような人になりたいなと思いました。

今回、私はソウル大学交流を通じてとても多くの貴重な体験をさせていただき、多くの友達を作ることができました。英語を使って自分の意思を上手に伝えることは難しかったですが、お互いがお互いを知ろうと努力し、コミュニケーションをとることができたと感じました。今後も韓国で出会った友達を大切に、この貴重な体験を活かせることができたらいいなと思います。

そして、この交流は大学のみんなや先生方、地域の方など多くの方の力を借りることができなければ達成できなかったことだと思います。多くの力を借りることができたためにこの交流は成功することができました。とても感謝しています。本当にありがとうございました。

2010年08月26日(木)

ソウル国際大学本学 (Seoul National University main Campus)

4年 A.M

まず、ソウル大学の敷地はとても広く、キャンパス内をバスで移動することに驚きました。本学では、留学生の支援などを担当するオフィスで、ソウル大学の紹介をしていただき、その後大学にある、韓国の歴史に関する博物館や、美術館の見学をしました。

ソウル大学は、さまざまな国からの留学生を受け入れており、韓国内だけでなく世界に通用する学生を育成してということを感じました。



博物館では歴史について、通訳の方を介して説明していただいたのですが、韓国と日本との歴史を改めて考えるよい機会となりました。美術館は、期間に応じて展示されるものが変わるので、学生にとっての癒しの空間になっているのだらうと思いました。数多くの美術品を、館内の方に説明していただきながらみることができ、大変楽しい時間を過ごすことができました。

フォトギャラリー

誠信女子大学

韓国の伝統的な衣装韓服（はんぼ）を着せていただきました。

結婚式に韓国の人はこの衣装を着ます。そのあとはお茶会・・・

日本の茶道と同じところもありました。おもてなしの心は日韓共通です。



景福宮

大都会の中に昔のお城がそのまま残っていて、昔と現代が共存している不思議な場所でした。

とっても広くてきれいな建物がたくさんありました。昔は王様しか通ることができない道を私たちは威張ってみんなで歩きました。

